

報 告

小児医療における心理的援助に関する調査研究

—米国との比較から—

細 田 珠 希

〔論文要旨〕

わが国の小児医療において、心理的援助へのニーズは高まりをみせているものの、いまだ心理的援助が十分に提供されているとはいえない。一方、米国では小児医療における心理的援助が広く普及しており、日本における心理的援助体制の発展の足掛かりとして米国での取り組みを参考にすることが重要である。そこで、本研究は日米の文献をもとにした比較研究により、わが国の小児医療における心理的援助の現状と課題を明らかにし、検討を加えることを目的とした。

今回の研究により、(1)日本の小児医療における心理的援助体制の遅れ、(2)日本における小児医療心理士養成のための教育システムの未整備、(3)日本同様、心理的援助が普及した米国においても「チーム医療における連携の難しさ」が指摘されていること、そしてそれに対する取り組み、の3点が示された。

Key words : 小児医療, 臨床心理士, 心理的援助, 米国, チーム医療

I. はじめに

小児科における身体医療の中で心理的背景がうかがわれることや、また身体医療の治療上、あるいは二次的に心理的問題が生じる場合があり¹⁾、子どもの病気には心理スタッフが医療チームの中で積極的な役割を果たすことが不可欠である²⁾。しかし、小児医療分野における“子どものメンタルヘルスはあまりに軽視されてきた”³⁾と庄司が指摘するように、日本の小児医療において臨床心理士（以下、心理士と略）の専門性はいまだ広く認知されておらず、心理的援助が十分に提供されているとはいえない。

一方、米国の小児医療において心理的援助は広く普及しており、日本における心理的援助体制の発展への足掛かりとして米国での取り組みを学ぶことが重要である。しかし、包括的な日米の比較調査研究は見当ら

ない。そこで、本研究は日米の比較調査を行うことにより、わが国の小児医療における心理的援助の現状と課題を明らかにし、今後の方向性について検討を加えることを目的とした。

II. 研究方法

日米の小児医療における心理的援助に関する関連論文、関連資料を通して情報を収集する。また、文献から情報が得られない場合には、インターネットの利用や関係者に直接文書（メール）での問い合わせを行った。

III. 研究結果

1. 小児医療における心理的援助の普及

1997年の調査研究によると、日本では全国小児科医療機関1,915施設のうち常勤心理士を配置しているの

はわずか2.4%, 非常勤も5.8%の導入にとどまり, 心理士が全く関与していない小児科が約7割という実態が明らかにされた⁴⁾。その9年後の2006年の調査研究では, 全国小児科284施設, 精神科83施設のうち心理士が配置されている施設は143施設(39.0%)であり, そのうち25.0%の施設が心理士を常勤職として配置していた⁵⁾。パーセンテージの比較において常勤心理士の数は10倍以上の伸びであるが, しかし, 後者は小児科のみならず精神科も含めた数値であることに留意すべきであろう。そして, 2006年の安立らによる京都府内の小児科医81名を対象とした調査では, 心理士が治療にかかわっているという回答はわずか18%であった¹⁾。

一方, 米国では, 1991年にはすでに, 300を超える大学病院小児科のうち70%に心理士が配置されていた⁶⁾。さらに, The Society of Pediatric Psychology 会長 Koocher 氏にメールで尋ねたところ(2011), 現在では米国すべての小児病院において心理的援助が提供されており, その活動は心理検査, 心理的治療(症状緩和, 疼痛管理, 治療意欲の促進, 心理療法), 研究活動と多岐にわたるといふ。そして, 心理士の介入により, 子どもの症状(攻撃性, 不安, 夜尿, チック, 反復性腹痛, 肥満, 学校生活上の問題, etc.)に改善がみられ, それに付随して後の医療機関の利用が減少したという結果が示されている⁷⁾。いずれも, 調査年度・方法・対象施設が異なるため単純な比較はできないが, 日本の小児医療における心理的援助への認識や体制整備の遅れがうかがえる。

2. 心理士の教育システム

庄司らは, 心理士が小児科で勤務するのに必要な知識, 教育について, “小児科で勤務するうえで必要な知識(小児科学に関する知識や医療保険制度などを含む)”, “医療で働くための基本的な知識と技能(カルテの書き方やチーム医療・連携などを含む)”, “訓練”, “体験学習”, “実習”, “スーパービジョン”, “研究”の7点についてまとめている⁸⁾。しかし, 日本では, 大学, 大学院での心理学科(専攻)カリキュラムにおいて, 「精神医学」を除き, 「小児医学」, 「小児保健」あるいは「医療, 医学」に関する科目は用意されていないように³⁾, 小児医療で求められる心理臨床スキルを体系的に学べる教育システムは整備されておらず, 小児医療分野で働く心理士は現場に携わりながら

各自で自己研鑽を積んでいる現状がある。

一方, 米国では, 19世紀後半より小児医療心理学(Pediatric Psychology)が発展しており, それは“小児・思春期, そしてその家族の健康と発達を促すために, 身体および心理的問題に焦点を当てた研究と実践にもとづく分野である”とされている⁹⁾。そして, 2000年には The Society of Pediatric Psychology が米国心理学会(The American Psychological Association)の56部門中の一部門として位置付けられ, 研究活動の促進やカンファレンスを活発に行うと共に, 小児医療心理士(小児医療分野で働く, もしくは研究を行う心理士を指し, 心理士と別個の資格があるわけではない)の養成にも力を注いでいる。そのウェブサイトには, 小児医療心理士を養成する60以上の大学院(臨床心理学博士課程)が掲載されており, 小児医療心理士を目指す学生は上記の大学院の中で「Clinical Child Concentration」, 「Child and Pediatric Track」といったコースを選択することができる¹⁰⁾。

庄司が, “アメリカでの養成過程は時間をかけた, 専門性の高い人を求めるという目的がかなり明確である”¹¹⁾と述べているように, 米国では臨床心理学博士課程への入学競争率は約2~5%と極めて高く¹⁰⁾, さらに, 各大学院のウェブサイトからも知ることができるが, 卒業までの年数も5年から8年に集中している。

特筆すべきは, 前述した小児医療心理学の定義にも記されているように, 小児医療心理士の養成において, scientist-practitioner model, すなわち臨床家であると同時に研究者を育成することに主眼が置かれており¹⁰⁾, 卒業後も小児医療における心理的治療の有効性や課題などを, エビデンスにもとづいて広く示していくことが常に求められている点である。

以上のように, 米国では臨床心理学の一分野としての小児医療心理学の位置づけが確立されている。そして, 教育システムにおいても, 各大学が独自の基準で小児医療心理士を養成しているのではなく, The Society of Pediatric Psychology の基準のもとに小児医療心理士を養成する大学院が選定されており, さらに卒業後も, 研究やカンファレンスを通じた小児医療心理士同士ネットワーク体制が作られている。換言すると, 米国では小児医療心理士の養成から卒業後までの道筋が整っており, 効率的な技能の習得とそれをもとにした実践・研究によって小児医療および臨床心理学への貢献が果たされているといえよう。

していく, 他職種の研修会に参加するなどして他職種への理解を深める, 現場での実践のなかで心理的援助が治療に役立つことを実感してもらう, といったさまざまな次元でのアプローチが考えられる。さらに, その「連携」は職場の医療チーム内での連携にとどまらない。米国での取り組みにもみられるように, 各病院における医療チームを拠点とし, 地域との連携, そして病院の枠を超えた心理士同士・他職種間のネットワークの構築により, 病院間における格差を減らし, 地域・国レベルでの質の安定した心理的援助体制を築いていけるのではないかと考えられる。そしてそのような試みと並行しながら, (2) の教育システムの問題を検討し, 小児医療領域で働く心理士を育成していくことが重要であろう。

最後に留意すべき点として, 心理的援助は社会文化的背景に大きく規定されることを忘れてはならない。小児医療における心理的援助を考えた時, 保険制度等を含めた日米の医療システムの違い, 医療スタッフの心理的援助に対する意識を含めた医療文化の差異も考慮すべきであり, 米国の心理的援助体制をそのまま日本に適用することは現実的とはいえない。すなわち, 米国においても社会文化的文脈のなかで, 試行錯誤のもとに現在の体制が築かれており, そういった背景も含めてさらに研究していく必要がある。そのうえで, 現在の日本の医療システムの中で有効, かつ現実的な心理的援助体制を築いていくことが重要と思われる。

V. 結 語

筆者は臨床心理士として10年間, 子どもから大人までを対象とする医療・教育・福祉の現場に携わり, 心を砕いてきた。そして, その中で多くの深刻な心理社会的問題を抱える家族が必要な支援を得てきていないことに気づかされた。不登校, 発達障害, 虐待, 身体疾患にまつわる心理的問題や精神疾患など, 大人になり, 問題をさらに深めてカウンセリングに訪れる患者を目にし, もっと早く支援の手が差し伸べられていれば, ともどかしい思いに駆られていた。もし彼らが人生の早期の段階で SOS のサインを誰かに気づいてもらえていたら, そしてもし彼らの家族が“誰かに支えられている”という安心感を持てていたら, その結果はまた違っていたのではないかと考えられる。

そのような中, 小児医療に携わる機会を得, 小児医療が子どもとその家族に心理的援助を提供する重要な

契機となり得ることを学んだ。小児医療における心理的援助体制が整うことにより, 小児医療のみならず広く社会に効果をもたらすのではないかと考えられる。

付 記

本稿をまとめるにあたりご協力いただき, 順天堂医院小児科・思春期科とともに心理的援助に取り組んでいる加川栄美先生に深く感謝致します。

文 献

- 1) 安立奈歩, 國松典子, 河野伸子, 他. 小児科における心理臨床の現状 心理臨床家と小児科医の心理的援助の取り組みに関する調査より. 心理臨床学研究 2006 : 24 (3) : 368-374.
- 2) 帆足英一, 帆足暁子. 入院している子どもへの支援. 奥山真紀子, 庄司順一, 帆足英一, 編. 小児科の相談と面接 心理的理解と支援のために. 第1版. 東京. 医歯薬出版株式会社. 1998 : 134-150.
- 3) 庄司順一. 心理士の育成について. 小児保健研究 2007 : 66 (2) : 189-191.
- 4) 帆足英一. 小児医療における養育環境の実態と問題点. 小児の精神と神経 1997 : 37 (1) : 3-12.
- 5) 庄司順一, 澁谷昌史, 有村大士, 他. 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業). 2006 : 112-126.
- 6) White S. A developmental history of the Society of Pediatric Psychology. Journal of Pediatric Psychology. 1991 : 16 (4) : 395-410.
- 7) Finney JW, Riley AW, Cataldo MF. Psychology in primary health care : Effects of brief targeted therapy on children's medical care utilization. Journal of Pediatric Psychology. 1991 : 16 : 447-461.
- 8) 庄司順一, 松崎くみ子, 澁谷昌史, 他. 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業). 2006 : 179-194.
- 9) Aylward BS, Bender JA, Graves MM, et al. Historical Developments and Trends in Pediatric Psychology. Michael C Roberts, Ric G Steele, eds. Handbook Of Pediatric Psychology Fourth Edition.

- New York. Guilford. 2009 : 3-18.
- 10) The Society of Pediatric Psychology. インターネット URL. <http://www.societyofpediatricpsychology.org/new.shtml> 2011.04.11引用
 - 11) 庄司順一, 奥山真紀子, 松寄くみ子, 他. 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究 子どもの心の診療に携わるコメディカル・スタッフの育成に関する研究 厚生労働科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業). 2007 : 135-163.
 - 12) Brandon S Alyward, Jade A Bender, Montserrat M Graves, et al. Historical Developments and Trends in Pediatric Psychology. Michael C Roberts, Ric G Steele, eds. Handbook of Pediatric Psychology Fourth Edition. New York. Guilford. 2009 : 3-18.
 - 13) Daniel L Clay. Cultural and Diversity Issues in Research and Practice. Michael C Roberts, Ric G Steele, eds. Handbook of Pediatric Psychology Fourth Edition. New York. Guilford. 2009 : 89-98.
 - 14) Sharp L, Pantell RH, Murphy LO, et al. Psychosocial problems during child health supervision visits : Eliciting, then what? Pediatrics. 1992 : 619-623.
 - 15) McCune YD, Richardson MM, Powell JA. Psychosocial health issues in pediatric practices : parents' knowledge and concerns. Pediatrics. 1984 : 74 : 180-190.
 - 16) Young KT, David K, Schoen C. Listening to parents A national survey of parents with young children. Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine. 1998 : 152 : 255-262.
 - 17) Blumberg SJ, Halfon N, Olson LM. The National Survey of Early Childhood Health. Pediatrics. 2004 : 113 (6 Suppl) : 1899-1906.
 - 18) Reisinger KS, Bires JA. Anticipatory Guidance in Pediatric Practice. Pediatrics. 1980 : 66 : 889-892.
 - 19) Cheng TL, Savageau JA, Bieglow C, et al. Assessing mother's attitudes about the physician's role in child health promotion. American Journal of Public Health. 1996 : 86 : 1808-1812.
 - 20) Briggs-Gowan MJ, Horwitz SM, Schwab-Stone ME, et al. Mental Health in Pediatric Settings : Distribution of Disorders and Factors Related to Service Use. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry. 2000 : 39 (7) : 841-849.
 - 21) Knowls P. Collaborative communication between psychologists and primary care providers. Journal of Clinical Psychology in Medical Settings. 2009 : 16 : 72-76.
 - 22) Dennis Drotar. Influences on collaborative activities among psychologists and pediatricians : implications for practice, training, and research. Journal of Pediatric Psychology. 1993 : 18 (2) : 159-172.
 - 23) Carter BD, Kronenberger WG, Scott E, et al. Inpatient pediatric consultation-liaison. Michael C. Roberts, Ric G. Steele, eds. Handbook of Pediatric Psychology Fourth Edition. New York. Guilford. 2009 : 114-129.
 - 24) Jane Meschan Foy, Kelly J. Kelleher, Danielle Laraque. Enhancing Pediatric Mental Health Care : Strategies for Preparing a Primary Care Practice. Pediatrics. 2010 : 125 (3) : S87-108.

[Summary]

This study examined the trends and challenges of pediatric psychological services in Japan and the U.S. The need for psychological services in Japanese pediatric departments has increased, but these needs are still not being met. By contrast, the U.S. has well-developed psychological practice, as well as education, training, and support for current and aspiring pediatric psychologists. In order to further develop these services in Japan, it is necessary to examine how psychology is applied in pediatric care and how pediatric psychologists are fostered in the U. S.

This study has shown (1) the underdeveloped psychological service system in Japan. In 2006, 39% of 284 pediatric departments and 83 psychiatry departments in Japan had psychologists on staff ; only 25% of these were employed full-time in pediatric departments. In the same period, only 18% of 81 pediatric departments in Kyoto reported staff psychologists. In contrast, today almost all US pediatric departments provide pediatric psychological services. Also, (2) unlike the US, which has more than 60 PhD programs to foster pediatric psychologists and the nation-wide Society of Pediatric Psychology to promote practice and research, Japan has

no such educational or support system. Additionally, (3) collaboration among pediatric medical teams is still a demanding issue even in the US, where such collaboration is common, and this study has introduced how the American Academy of Pediatrics addressed this issue.

This study indicates that in order to further develop effective psychological services in Japanese pediatric healthcare system, more practical accomplishments and further research into the subject to verify the effective-

ness of pediatric psychological services are necessary. Also, the improvement of educational system to foster pediatric psychologists and creating a nation-wide network among pediatric psychologists are needed.

[Key words]

pediatric psychology, psychologist, psychological services, the U.S., medical team